

# 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所



# 国立健康・栄養研究所の歩みと研究成果の社会実装

- 1920年 栄養研究所設置（内務省）  
（初代所長・佐伯 矩博士）  
1923年 関東大震災
- 1924年 栄養学校創設
- 1926年 最初の栄養士（第一期卒業生）
- 1945年 栄養士制度（栄養士規則）
- 1946年 国民栄養調査  
（2003年国民健康・栄養調査）
- 1962年 管理栄養士
- 1989年 国立健康・栄養研究所
- 2015年 国立研究開発法人  
医薬基盤・健康・栄養研究所

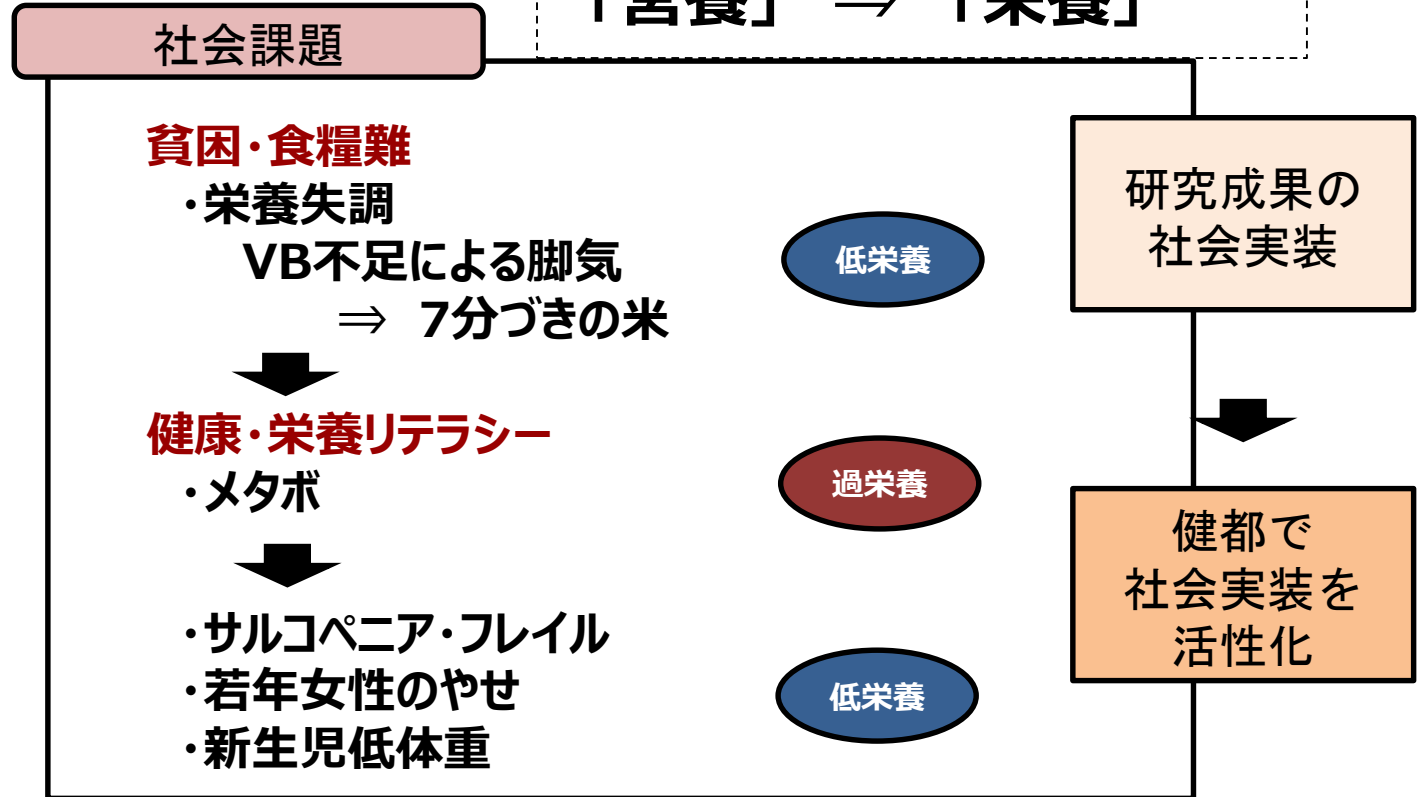
VA  
VB  
VD  
VE



**佐伯矩博士**（栄養学の父）

- 世界ではじめて
- ・ 国立の栄養研究所を創設
  - ・ 栄養士の創設

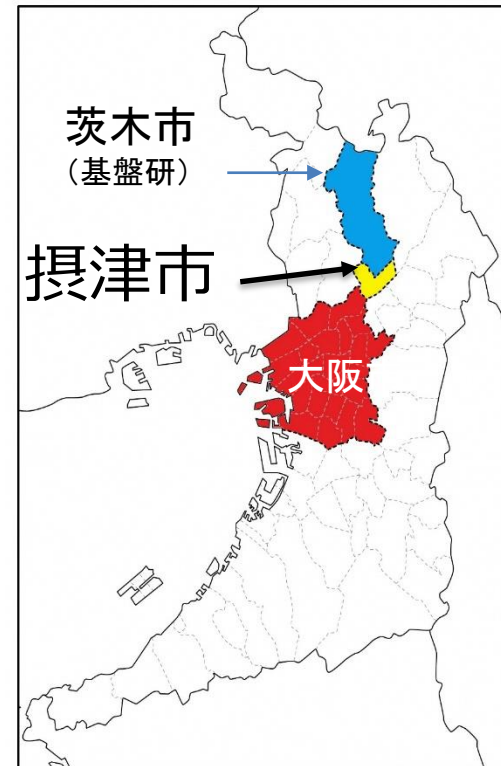
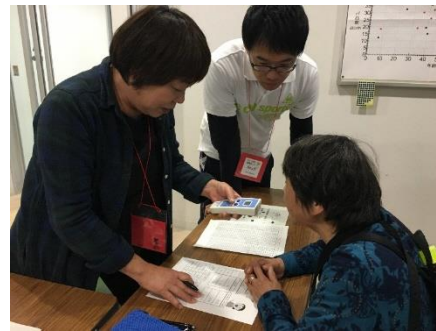
「**営**養」 ⇒ 「**栄**養」



**100年の成果の歴史 ⇒ 次の100年へのチャレンジ**

## メタボリックシンドロームとフレイルの予防・改善のための社会実装研究： 大阪府健康格差解決プログラム促進事業

1. フレイルの認知度と実態の調査(摂津市)
  - 無記名式質問紙郵送調査
  - 40歳以上男女10,000人
2. フレイルの啓発
  - 府内4カ所で約1000人参加



### メタボ、フレイル 「指標」のパラダイムシフト

◆従来  
指標: エネルギー摂取量

「メタボ」 → 減  
「フレイル」 → 増

健康感  
が正反対

◆今後  
指標: 筋肉量

「メタボ」 → 維持  
「フレイル」 → 維持

健康感  
変わらない

3. フレイル講演会
  - 市民向け講座を実施

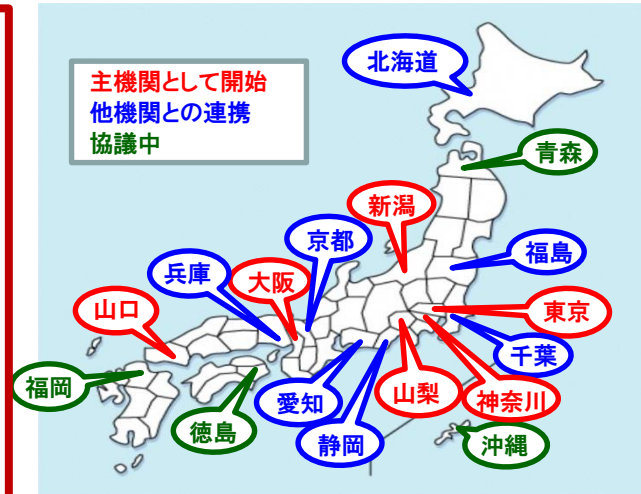
所長直轄部門、国際栄養情報センター、身体活動研究部、栄養疫学・食育研究部、栄養・代謝研究部との研究部横断プロジェクト

初めて中年世代(40歳～)のフレイル該当率を調査  
⇒40歳代でも60歳代と同等のフレイル該当率

# シナジー研究事業：生活習慣病の新しい予防法に関する研究

簡便且つ安定した腸内細菌の解析法を確立し、自治体や企業、病院との連携の元、日本各地での腸内環境に関する解析をスタート →各地域の特色を評価

簡便かつ安定した腸内細菌の解析法を確立  
 イルミナやクラボウなど関連メーカーでも推奨



平成30年度は、**5地域で736サンプル**※のデータを新たに収集

※主機関としてデータ収集に関わっている例のみ計上。  
 (他機関との連携も含めた場合、昨年度一年間のデータベースサンプル増加数は**1,307件**に上る)

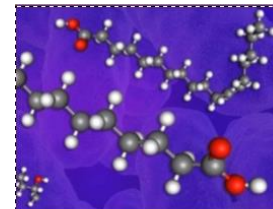
水溶性・脂溶性メタボローム解析  
 (従来のターゲット解析に加え、絶対精密質量分析によるノンターゲット解析も可能)



Mucosal Immunol (2019)  
 Allergy (2019), JACI (2018)など

最先端の腸内細菌叢解析とメタボローム解析との融合による次世代健康科学への挑戦

生物系日本人研究者として初めてScienceのwebinarにて講演 (2018.08)  
 「腸内細菌を介した脂質代謝と健康」



Brought to you by the Science/AAAS Custom Publishing Office  
**Science**  
 AAAS

## Science Webinar Series

The new era of postbiotics: Gut microbiome-derived lipid metabolites for health and wellness

August 8, 2018

### Participating experts



Jun Kunisawa, Ph.D.  
 National Institutes of Biomedical Innovation, Health and Nutrition  
 Osaka, Japan

# 社会実装に向けた取り組み(周南市モデル)を始めます



年間80万人、1日平均  
2,200人が来店！



大麦は食物繊維の  
多い食材として注目



## 腸内フローラ、食事・栄養状態に関する 研究モニター募集!!

地域の皆さんの健康づくりに役立てるために、  
腸内細菌や食事・栄養状態に興味のある方を  
対象に研究に参画して下さるモニターを募集します。

腸内細菌と栄養状態のレポートを返却！  
麦みそなどの特産品をプレゼント！



参加条件などの詳細な案内は資料をご覧ください。  
新南陽商工会議所HPでも確認出来ます。  
<http://www.s-cci.or.jp>

お気軽にお問い合わせ下さい  
新南陽商工会議所 担当: 笹木、内山  
電話番号 0834-63-3315

実施機関: 国立研究開発法人  
医薬基盤・健康・栄養研究所  
新南陽商工会議所  
協力: 周南市  
道の駅ソレネ周南

### 2月8日に記者発表



#### シマヤの麦みそ

周南市の腸内細菌(フローラ)を調べ、健康増進につなげようと研究している国立研究開発法人「医薬基盤・健康・栄養研究所」(大阪府茨木市)と新南陽商工会議所が、研究結果を生かして周南市の特産品メーカー、シマヤの麦みそを活用した新しい特産品の開発に取り組んでいる。

#### 周南市民が協力

腸内細菌叢の調査は、健康増進の重要な手がかりとされている。周南市では、市民の腸内細菌叢を調査し、健康増進につなげようとする。この調査には、周南市民の協力が不可欠である。シマヤの麦みそを活用した新しい特産品の開発に取り組んでいる。

#### 「腸内細菌」データ 特産品開発に活用

腸内細菌叢の調査は、健康増進の重要な手がかりとされている。周南市では、市民の腸内細菌叢を調査し、健康増進につなげようとする。この調査には、周南市民の協力が不可欠である。シマヤの麦みそを活用した新しい特産品の開発に取り組んでいる。

#### 周南市民モニター募集へ

腸内細菌研究で特産品開発へ

国立研究所

腸内細菌叢の調査は、健康増進の重要な手がかりとされている。周南市では、市民の腸内細菌叢を調査し、健康増進につなげようとする。この調査には、周南市民の協力が不可欠である。シマヤの麦みそを活用した新しい特産品の開発に取り組んでいる。

# 健都に期待すること

## ●研究の社会実装の「場」

- ・研究成果を社会課題の解決につなげる場としての機能

## ●多様な企業、医療機関、大学、学生、市民とのコラボレーション

- ・社会課題の複雑化、自らだけでは課題解決が厳しい
- ・自らが技術、研究からでなく、現場のユーザーニーズに基づいたサービス、製品の提供

## ●新たな社会価値の創出

- ・コラボレーションによる新たな気づき、視点を通して新たな価値を創出
- ・一見、関係無いと思われる課題との関係(SDGsの視点)による社会課題の解決

## ●ベンチャー創出、育成

- ・大企業だけでなくベンチャー企業も活動しやすいエコシステムの構築
- ・レンタルラボの活用、コーディネーター

## ●プロトタイピング、テストマーケティングの場

- ・小さく試し、小さく失敗できる場

ただプレイヤーがいるだけでは  
クラスターではない

適度な「連携」と「競争」が重要



クラスターをマネージするコーディネーター役が必要

# 健都における多様な研究領域の連携

## 複数の研究領域の連携により研究を社会に実装する

